

学会だより

◇ 常任幹事会

開催日：平成 19 年 12 月 22 日

場所：東京大学農学部

出席者：会長 谷坂隆俊，長戸康郎，大澤良，北野英己，江面浩，中園幹生，阿部利徳，加藤鎌司，長谷川博，勝田真澄，小松田隆夫，吉村淳，熊丸敏博，佐々英徳，奥本裕

各常任幹事から業務の経過報告を行った後，Duncan Vaughan 氏の英文編集委員への追加委嘱，投稿規定の改訂，競争入札の公告ならびに開札手続き，学会功労賞に関する内規改訂について審議した。また，学会功労賞の推薦について意見交換を行った。

地域活動

◇ 東北地区

東北育種談話会主催の第 2 回東北育種研究集会が 2007 年 8 月 20 日（月）に秋田県立大学生物資源学部を会場にして，約 45 名の参加で開催されました。今回は招待講演 2 題，ポスター 13 題の発表が行われた。秋田県立大学の森宏一先生による開会の挨拶の後，同大学の赤木宏守先生の進行により行われた。2 題の講演はカラー写真や詳細な図表が提示され，秋田県の果樹試験場におけるリンゴの育種および東北農業研究センター大豆育種研究東北サブチームにおける東北向けダイズの育種に関して発表と質疑応答が行われた。また，ポスターは発表では，内容やレベルにおいても目を見はるものがあり，休憩の時間にはスイカやメロンなども用意され活発な討論が行われた。2 題の講演およびポスター発表の題目等に関しては以下のようです。

◎講演

1. 「秋田県におけるリンゴ育種」上田仁悦氏（秋田県農林水産技術センター果樹試験場）：秋田県の果樹試験場では昭和 41 年からリンゴの育種を開始し，これまでに千秋，秋田紅あかり，秋しずくなど 5 系統を品種登録したが，それらの育成経過や特性について紹介された。
2. 「東北向けダイズ品種の育成」湯本節三氏（東北農業研究センター大豆育種研究東北サブチーム）：東北農業研究センター大豆育種研究東北サブチームでは東北等の寒冷地を対象にダイズ品種の育成を行っており，これまで多数の品種が育成された。今回はこれらの，地域適応性，障害耐性，機械化適応性，収量，品質および用途別加工適性等について紹介された。

◎ポスター発表

P-01：ダダチャマメ系統における糖および遊離アミノ酸含量の品種間差異と多肥栽培による変動。阿部利徳・藤

原優・竹屋佳奈子・青島正和（山形大農学部）P-02：セイヨウナタネ（*Brassica napus* L.）における多胚現象の形態学的観察。高橋優子¹・ケネディ（赤坂）庸子^{1,2}・横井修司¹・高畑義人¹（1. 岩手大農学部，2. コンボン研究所）P-03：スターチシンターゼアインザイム SSI と SSIIIa 変異体イネのユニークなデンプン。藤田直子^{1,2}・吉田真由美^{1,2}・浅倉典子¹・斎藤かほり¹・近藤友典¹・内海好規¹・宮尾安藝雄³・廣近洋彦³・中村郁典^{1,2}（1. 秋田県立大生物資源科学部，2. JST CREST，3. 生物研）P-04：黄ダイズの種皮着色抑制遺伝子に由来する二本鎖 RNA の同定。倉内佑・大久保喜光・葛西厚史・千田峰生（弘前大農学生命科学部）P-05：DELLA ドメイン欠失 GAI 過剰発現系統での表現型解析。荒谷陽介・原田竹雄（弘前大大学院農学生命科学研究科）P-06：葉緑体タンパク質透過装置欠失変異体を用いた葉緑体シグナル伝達経路の探索。柿崎智博・松村英生・寺内良平・稲葉丈人（岩手大寒冷バイオシステム研究センター）P-07：日本のカブ（*Brassica rapa* var. *rapa*）在来品種の遺伝的類縁関係。高橋有・横井修司・高畑義人（岩手大農学部）P-08：カンボジアイネ在来種の遺伝的多様性。本間照久¹・石川隆二¹・佐藤洋一郎²・佐藤雅志³・中村郁郎⁴・Leng Lay Hout⁵・Khun Leang Hak⁵・Sakhan Sophany⁵・Men Sarom⁵（1. 弘前大大学院農学生命科学研究科，2. 地球総合研究所，3. 東北大生命科学，4. 千葉大自然科学，5. カンボジア農業 & 開発研究所）P-09：赤毛を利用した高頻度変異体作出系と変異の特徴について。今井克則^{1,2}・石川隆二¹（1. 弘前大農学生命科学部，2. 岩手大連合農学研究科）P-10：Brassica rapa の連鎖地図作成と種間不和合性遺伝子のマッピング。石丸洋次・北柴大泰・西尾剛（東北大大学院農学研究科）P-11：イネの低温苗立ち性に関する染色体領域の解析。手塚耕一¹・川本朋彦^{1,2}・高橋秀和¹・桜井健二¹・渡辺明夫¹・森宏一¹・赤木宏守¹（1. 秋田県立大生物資源科学部，2. 秋田県農林水産センター農業試験場）P-12：ダイコン（*Raphanus sativus*）の根の肥大に関わる遺伝子単離のための DNA マーカー作成。齋藤雅子・北柴大泰・西尾剛（東北大大学院農学研究科）P-13：リンゴ葉からの簡便 PCR による DNA マーカー選抜育種。森谷茂樹・岩波宏・古藤田信博・阿部和幸（農研機構果樹研究所）

今回で 2 回目の東北育種研究集会は，秋田県立大学の赤木先生がコーディネートして下さり，学生さんを含めて約 45 名の参加があり，活発で有意義な討論が行われました。今後はさらに本研究集会を東北地域の会員に広く知っていただき，東北地域の育種関係者の率直な交流の場として，多くの会員が参加するような会にしていけたらと願うものです。文責：阿部利徳（山形大農）

◇ 中部地区

第 15 回講演会

日時：平成 19 年 12 月 1 日（土）、場所：信州大学農学部講義棟 2 階、参加者：一般；17 名、学生；46、計 63 名

◎話題提供《座長：南峰夫（信州大学）》

①近縁野生種を利用したトマトの難防除病害虫抵抗性育種—育種素材の検索を中心にして—（長野県中信農業試験場 岡本潔）

②長野県におけるダイズ病害虫抵抗性育種の現状と課題（長野県中信農業試験場 山田直弘）

◎幹事会：①会計報告と次回・次々回開催地と次期世話校の承認、②本会の趣旨、若手・次世代育成を確認一般講演

◎セッション 1《座長：掛田克行（三重大学）》①：イネ茎頂分裂組織における側生器官分化機構の解析。加藤万希雄¹・北野英己²・佐藤豊¹（1. 名大生命農学院, 2. 名大生物機能開発利用研究センター）②：イネの根の発生・分化を支配する CRL5 遺伝子の単離。伊藤寛子¹・木富悠花²・北野英己³・犬飼義明²（1. 名大農, 2. 名大院生命農学, 3. 名大生物機能開発セ）③：イネの 1 次枝梗数の増加に関わる QTL の検出。池田真由子¹・宋献軍²・芦荻基行²・松岡信²・北野英己²（1. 名大院生命農学, 2. 名大生物機能開発利用研究センター）④：トランスポゾンタギング法を用いたイネ草型遺伝子の単離。井手康人¹・平野恒²・北野英己²（1. 名大院生命農学, 2. 名大生物機能開発利用研究センター）

◎セッション 2《座長：大場伸哉（岐阜大学）》①：ヒガンバナ属植物 210 系統における核型と稔性。加藤文啓・古田喜彦（岐阜大学応用生物科学部）②：Identification of RAPD marker linked to few-pungent trait in *Capsicum frutescens* using a bulked segregation analysis. Saritnum, O.¹, K. Matsushima², M. Hirai³, Y. Minamiyama⁴, M. Minami², T. Baba² and K. Nemoto²（1. United Grad. Sch. Agric. Sci., Gifu U. (Shinshu U.), 2. Agr., Shinshu U., 3. Agr., Kyoto Pref. U., 4. Kyoto Pref. Institute of Agric. Biotech.）③：オオムギ野生種における S 候補遺伝子およびその周辺ゲノム領域の解析。大岸康佑・栢部健人・掛田克行（三重大生物資源）④：普通ソバ自家和合性系統における自殖弱勢の影響。後藤裕亮・歌野弓・南峰夫・松島憲一・根本和洋（信州大院農）⑤：播種期がダツタンソバ (*Fagopyrum tataricum*) の生育および収量に及ぼす影響。福澤育味・中野将宜・南峰夫・松島憲一・根本和洋（信州大院農）

◎セッション 3《座長：犬飼義明（名古屋大）》①：Genetic Variation in Growth Characters, Colorant and Antioxidant Properties of Red Amaranth. Khandakar Laila, Md. Babar, Ali and Shinya Oba (United Grad. School of Agr., Gifu University) ②：Betacyanin Content and Antioxidant Activity of Red Amaranth (*Amaranthus tricolor* L.) under Different Sunlight Levels. Md. Babar Ali, Laila Khandaker and Shinya Oba (United Grad. School of Agr., Gifu Univ.) ③：アマランサ

ス加工種子の保存性について。増田倫久¹・根本和洋¹・南峰夫¹・松島憲一¹・松下岳¹・尾畑高英²（1. 信州大院農, 2. 森永研究所）④長野県北信地域のトウガラシ在来品種「ぼたんこしょう」の機能性成分の評価。安達諒¹・松島憲一¹・原田浩平¹・濱渦康範¹・南峰夫¹・根本和洋¹・近藤君夫²・川口奏子¹（1. 信州大院農, 2. 長野工技セ）

◇ 近畿地区

2007 年 12 月 8 日に近畿作物・育種研究会シンポジウム（第 164 回例会）を滋賀県立大学において開催した。テーマおよびプログラムは以下の通りである。

テーマ：太陽の恵みを豊かなエコライフに—バイオエネルギーの現状と展望

○バイオエネルギーの現状と我が国における政策：鈴木徹（農林水産省近畿農政局）

○菜の花プロジェクトの概要：藤井絢子（菜の花プロジェクト）

○バイオマスエネルギーと地域活性化を目的としたナタネ・ヒマワリの生産と利用：岡田謙介（中央農業総合研究センター）

○バイオメタノール製造に果たしうる資源作物の役割：小林真（畜産草地研究所）

○バイオ燃料は地球を救えるか：山根浩二（滋賀県立大学工学部）

○総合討論 座長：秋田重誠（滋賀県立大学環境科学部）

◇ 四国地区

2006 年 11 月 29 日に四国談話会公開シンポジウムを日本作物学会四国支部会と共同開催し、翌 11 月 30 日に第 72 回講演会を香川県三木町文化交流プラザで開催した。

◎公開シンポジウム「作物生産のバイオマス利用を考える」

安武正史（近畿中国四国農業研究センター）中国四国地域におけるバイオマス研究の動向／森田茂紀（東京大学大学院農学生命科学研究科）バイオエタノール生産と利用の現状と課題

◎一般講演

①：イネ無根毛突然変異体の特性解析。湯尾崇央¹・長谷川博²・一井眞比古¹・武田真¹（1. 香川大, 2. 滋賀県立大）②：Pelargonium 属植物の種間交雑と作出個体の花色。上甲まどか・本藤加奈・柿原文香・加藤正弘（愛媛大農）③：スイゼンジナのポット栽培におけるニーム核油粕の有効性の検討。川崎輝美・大橋広明（愛媛大農）④：ササユリにおける胚珠へのジベレリン処理ならびに子球肥大への糖効果の検討。三木昭範・大橋広明（愛媛大農）⑤：土壌改良剤ハイフミンデルマ施用がツクネイモの収量と品質に及ぼす影響について。浅海英記（愛媛県農試）⑥：SSR マーカーによる大麦品種判別用マーカーの検索。岡本充智・藤堂太・栗坂信之（愛媛県農試）⑦：小麦栽培品種における胚芽の ATP 含量の比較。栗坂

信之・兼頭明宏・河野章・住吉俊治（愛媛県農試）

◇九州地区

第2回九州育種談話会：九州一円の大学，国公立・民間試験研究機関から参加がありました。来年度は九州大学での開催を検討することになりました。

日時：平成19年11月30日（金）

特別講演：13：00～15：00，一般ポスター発表：15：30～17：00，会場：鹿児島大学農学部，懇親会：ステーションホテルニューカゴシマ 講演会参加者：44名，懇親会参加者：14名，運営委員長：田浦悟（鹿児島大学）

◎特別講演

○鹿児島県におけるキク類の育種と普及：永吉実孝（鹿児島県農業開発総合センター花き部）

○いも焼酎の製造法及び酒質の特徴：高峯和則（鹿児島大学農学部准教授）

○ダイズのアサヒノヨトウ抵抗性の遺伝解析と育種：小松邦彦（九州沖縄農業研究センター）

○炊飯米の食味値に関するQTLのマッピング：和田卓也（福岡県総合農試）

◎一般講演

蒸しいもの糖度が高く，外観が優れる青果用サツマイモ新品種「べにはるか」の育成。○甲斐由美¹・石黒浩二¹・片山健二¹・境哲文¹・熊谷亨²・中澤芳則¹・吉永優¹（1.九州農研，2.作物研）／親イモ肥大特性からみたサツマイモの直播栽培適性。○境哲文・片山健二・甲斐由美・吉永優（九州農研）／醸造適性と貯蔵性が優れる焼酎用サツマイモ新品種「ときまさり」。○片山健二¹・熊谷亨²・甲斐由美¹・境哲文¹・吉永優¹・石黒浩二¹・中澤芳則¹（1.九州農研，2.作物研）／サツマイモ葉身のアントシアニン含量・組成。○高畑康浩・中山博貴・田中勝（九州農研）／サツマイモ葉身のアントシアニン含量・組成。○高畑康浩・中山博貴・田中勝（九州農研）／Identification of QTLs for Eating Quality of Japonica Rice 'Koshihikari'。○Wada, T., T. Ogata, M. Tsubone and Y. Matsue (Fukuoka Agric. Res. Center)／イネのトピイロウンカ抵抗性の遺伝学。○安井秀（九大農）／イネ長粒遺伝子座lk3の多様性。○鷹野典子・土井一行・久保貴彦・吉村淳（九大院農）／X-線照射によるダイズ突然変異体ライブラリーの開発。○秀島溜満子・佐藤奈々絵・松元美樹・池田勝志・穴井豊昭（佐賀大農）／組換え型CEL I endonucleaseの発現。○今井奈保子・秀島溜満子・穴井豊昭（佐賀大農）／「むらゆたか」のX線照射集団から得られた高ステアリン酸ダイズ突然変異系統。○池田まゆみ¹・今井奈保子¹・後藤有華¹・吉富淑玲¹・松本亮司¹・駒井史訓²・穴井豊昭¹（1.佐賀大農，2.佐賀大農資源循環フィールド科学教育研究センター）／高耐塩性 *Zoysia* 属系統における塩類腺の塩排出能。○松田靖・古富史朗・満井人知・芦矢尚之・村田達郎（九州東海大農）／*Zoysia sinica* における形態的特徴および分子マーカーを用いた地理的分布と遺伝的類

縁関係。金子博¹・○松田靖¹・宮越和美¹・星良和¹・明石良²・村田達郎¹（1.九州東海大農，2.宮崎大農）／ピーマンにおける複合病害抵抗性台木品種の育成。世見由香里¹・○杉田亘¹・藺牟田真作¹・木下哲次²・山口和典³・黒木利美¹・轟篤⁴・渡司照久¹・杉尾昌嗣¹・平原哲郎¹・長田龍太郎¹（1.宮崎総農試，2.東臼杵南部農改セ，3.中部農改セ，4.宮崎バイオテクセ）／茶における育種年限短縮のための苗生産および栽培法の検討。○根角厚司・松永明子・佐波哲次・岡本毅・吉田克志・荻野暁子・谷口郁也（農研機構野茶研）／ミカン亜科植物における染色体のCMA染色。○山本雅史¹・A. Asadi Abkenar²・松本亮司²・久保達也¹・富永茂人¹（1.鹿大農，2.佐賀大農）／メロン種子水中発芽能力の品種・系統間比較。仮屋博敬・成相真希子・衛藤威臣・○岩井純夫（鹿大農）／イネ品種JamaicaとIR36との間の交雑F2に見られた雑種弱勢現象の遺伝子分析。○一谷勝之¹・田浦悟²・佐藤宗治¹（1.鹿大農，2.鹿大遺伝子実験施設）／Gene distribution resistant to bacterial blight in Northern Vietnam rice varieties。○Taura, S.¹, Y. Sugita², D. Kawahara², N. Furuya³, P.H. Ton⁴, B.T. Thuy⁴, K. Kawabe¹ and H. Seko⁴（1. Inst. Gene Res., Kagoshima U., 2. Fac. Agri. Kagoshima U., 3. Fac. Agri. Kyushu U., 4. Hanoi Agri. U.）（文責：九州地域幹事：熊丸敏博）

日本育種学会会員異動（2007.10.21～2008.1.20）

◇普通会員入会：大西志全，鈴木達郎，竹内徹，藤野介延（北海道），小原実広，前島秀和（岩手），加藤信（秋田），秋廣高志，田中聖一，長崎英樹，宮本健次，吉田拓司，RODRIGUEZ BENITEZ EDUARDO（茨城），南藤和也（東京），大田幸士，唐建偉（神奈川），林猛（福井），岩崎勇次郎，藤田雅丈，藤本龍（静岡），殷彰顯，定塚（久富）恵世（愛知），川頭洋一（三重），片山寿人（滋賀），高居恵愛（京都），山根美樹（岡山），井上敬，高田衣子（福岡）

◇学生会員入会：小出陽平，高須温子，松永宗幸（北海道），倉内佑（青森），久米浩平，守岡貴（岩手），MD. ANOWARULHAQUE，大久保実香，大高麻美，岡崎正晃，沖山友哉，Oyoo, Maurice, Khan, Nisar，清水僚子（茨城），小田哲也，張新望，真壁壮（千葉），石森元幸，岡本美貴，河合新，小林健人，小林康真，田中伸裕，津釜大侑（東京），市川竜太郎，岡田英孝，齋藤美沙，野村茂樹（神奈川），酒井真実子，船木武人（新潟），上田弥生（静岡），島谷善平，山内卓樹（愛知），浅見武人，谷垣晴美，山本匠（京都），佐々木優（大阪），實友玲奈（兵庫），高橋悠樹（岡山），早川宗志，MICHAELTEYEBARNOR（高知），緒方千佳，阪田光和，渡邊美弥子（福岡）

◇外国団体会員：Dankook University Yulkok Library, Korea University Science Library（大韓民国）

住所変更等

◇ 普通会员：出原慧，柳沢朗（北海道），諏訪部圭太（宮城），寺上伸吾，深井英吾（茨城），齧島雅之（埼玉），

磯部祥子（千葉），戸栗敏博（神奈川），高橋昌宏（滋賀），田中克典（京都），柿窪善浩（和歌山），浜地勇次（福岡），村山盛一（沖縄）